

<コミュニケーション英語基礎における教科横断型授業>

Lesson5 Super Cool Biz Project 社会・家庭科・理科・英語科との連携授業

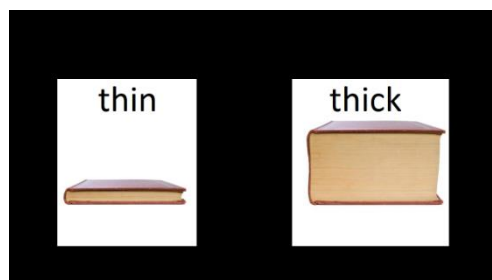
R2.6 月実施

○本レッスンにおける教科横断型授業のねらい

生活に不可欠かつ、それぞれの国や文化の特徴が出やすい「衣」について、様々な視点から考察し、学びを深めていく。

○Lesson5 の概要

クールビズの推奨と、JICA が紹介する世界の民族衣装の特性について学ぶレッスンである。新型コロナウイルス感染防止対策のための休校期間で実施した YouTube での映像授業において、各国の民族衣装の特徴を紹介をし、生地に関する英単語 (thin, thick, rough, smooth, airy, light, heavy など) を事前学習した(傾)・L1c。各教科との連携項目は以下の通りである。



↑ 生地の特徴を表す英単語のスライド (YouTube 動画より)

○1学年担任団との連携

休校明けの授業では、JICA 札幌様よりお借りした6カ国の民族衣装(ミャンマー・ベトナム・ウズベキスタン・タジキスタン・ブルキナファソ・セネガル)を着用した1学年担任団による民族衣装紹介動画を流した。昨年度は生徒が実際に衣装を着用し、着心地や手触りなどを直に語ることができたが、今年度は新型コロナウイルス感染防止のため生徒の衣装着用が難しく、身近な存在である担任団にその役割を担っていただいた。民族衣装に対する、生徒の興味関心、理解度を昨年と同様に深めることができ、英語科以外の教諭が英語を話している様子に盛り上がる生徒が多く、導入の活動としては成功だった。

また、YouTube の授業動画で導入した民族衣装の生地に関する英単語を、衣装の紹介動画で繰り返し使うことで、単語を定着させる効果があった。(傾) (先)



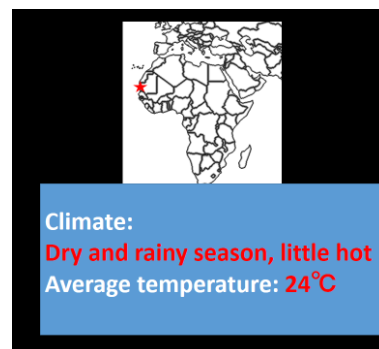
↑セネガルの民族衣装「ブーブー」を着用し、英語で着心地や特性について述べる1学年担任

○社会科との連携

上記の6か国+ロシア(衣装が手に入らなかったため写真のみの紹介)の位置、気候帯や気候特性に触れる時間を取り、climate, dry season, rainy season, average temperature, humid などの気候に関する英単語を学んだ。近隣の国でも地形によって気候に差異があることも併せて紹介した。

(思) (先)

セネガルの位置と気候特性を紹介したスライド→



○家庭科との連携

家庭科の観点から、民族衣装の生地素材にも着目し、寒い地域では cotton と wool が、暑い地域は hemp や cotton がメイン素材になり、風通しのよいデザインであること、冠婚葬祭に使用される衣装には silk が使用されることも学ぶことができた。地域によって衣服に使われる素材やデザインに差異が生まれる理由についてディスカッションを深めることもできた。

(傾)(思)(協)(先)・L1b,I1c

それぞれの生地特性や長所・短所、繊維の織り方については、家庭科の石川教諭よりレクチャーを受けていたため、スムーズに授業を進めることができた。また家庭基礎の繊維の単元において、英語で学んだ内容を更に深めていけるよう、指導内容について情報交換を行うことができた。

④ Senegal : *Bou bou*

●Climate

Dry and rainy season, little hot (all the year round)

●Average Temperature

24°C (Hottest 27°C)

●Texture

smooth	soft	thin	light	airy
rough	stiff	thick	heavy	not airy

●Design

simple	colorful	loose	tight	decorations
--------	----------	-------	-------	-------------

●Material

cotton	hemp	silk	wool	synthetic fabric (polyester, rayon, etc)
--------	------	------	------	--



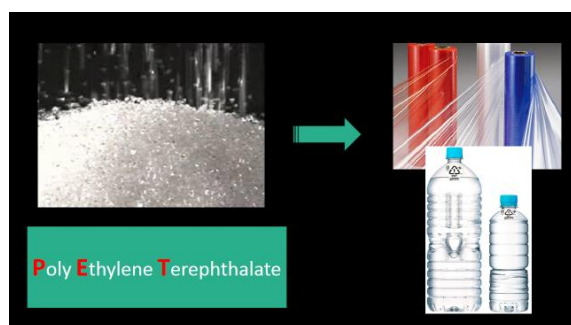


↑肌触りや生地の特徴、原料についてまとめたハンドアウト。

リスニング活動を通して、民族衣装の特性を理解する。

○理科との連携について

天然繊維 (Natural fabrics: cotton, silk, wool, hemp) で作られていた各国の民族衣装の素材が、近年ポリエステルに代表される化学繊維 (Man-made fabrics) に替わってきていることを題材に、「科学技術の発展」と「伝統技術の継承」をテーマにディスカッションを行った。理科の山形教諭より、化学繊維が作られる工程を簡単に実験した動画をいただき、ポリエステル繊維がペットボトルと同じ原材料で作られ、加工されていく様子を知ることができた。天然繊維 (綿) ができる工程 (動画は適切な長さのものが無かったため、パワーポイントに工程を解説したものを紹介して対応) と比較し、それぞれの繊維ができる過程の差異とそこから生じる、化学繊維と天然繊維の長所・短所について議論を深めることができた。(傾)(思)(協)・I1c



↑化学繊維(左)と天然繊維(右)についての解説画像

事前に山形教諭より化学繊維の素材や加工過程についてレクチャーを受けていたため、実際の授業ではスムーズな導入ができ、生徒の理解度が深まったと感じた。昨年は動画や画像がなく、化学繊維と天然繊維の違いについて漠然とした説明しかできず、ディスカッションに対する予備知識が不十分であったが、今年度はわかりやすくそれぞれの繊維の成り立ちを紹介することができた。生徒の繊維に対するイメージが明確になったうえで両者の違いや、長所短所について考察し、ディスカッションでは教員の予想を上回る多様な意見が出てきており、教科横断型授業の利点を生かすことができた。

●それぞれの繊維についての長所短所について生徒から上がった意見

◎天然繊維の長所

- ・環境や人間に優しい
- ・それぞれの繊維に特徴があり、独自の風合いが楽しめる
- ・織り方に文化的な違いが生まれ、地域の独自性が生まれる
- ・(ものによっては)希少価値がある

△天然繊維の短所

- ・大量生産ができない
- ・保管や洗濯が難しい
- ・加工に手間がかかる場合がある
- ・生産コストが高く、手間がかかる
- ・生産性が低く、管理も面倒くさいので効率が良くない

◎化学繊維の長所

- ・大量生産、低コストが可能
- ・耐久性があり、保管も簡単
- ・加工がしやすい

△化学繊維の短所

- ・マイクロプラスチックなどの環境問題の原因になる
- ・皮膚の弱い人はかぶれる可能性あり
- ・衣類が万国共通の肌触り、見た目になり、伝統文化が損なわれる

○教科横断型授業を英語科として深める工夫(一例)

繊維の特性を理解したうえで、日本の伝統衣装「着物」の素材がポリエステル繊維のものが出てきている現状についてどのように感じるか生徒たちとディスカッションをした。(傾)(思)(協)・L1c, I1c

●着物に対する生徒の反応(2クラス80名対象)

- ・自分で着ることができる生徒 ……0名
- ・親世代で着ることができる家庭 ……10家庭程度
- ・祖父母世代 ……20家庭程度

- ・着物を着るのは、冠婚葬祭などの「特別な日」
- ・自分で着てみたいが面倒くさそう、難しそう
- ・着物は着せてもらうもの
- ・高価で気軽には着られないもの
- ・動きにくくて大変そう
- ・伝統文化として素晴らしい
- ・日本＝着物のイメージ
- ・伝統を残すために、やはり絹で頑張って作るべき
- ・ポリエステル製でも、安くて管理がしやすいならよい
- ・化学繊維のものは本当の着物ではないと思うが、気軽に着られたり、普段着扱いで着る分には良い
- ・着物を普及させるのなら、安価な化学繊維製もOK。気に入った人は高い絹製のものを購入すればよい

化学繊維や天然繊維の特性が動画や画像で上手に理解することができたため、昨年の同テーマのディスカッションよりもはるかに多様な意見が生まれた。また、家庭基礎で実施予定の浴衣の着付け講座に向けて、伝統文化に親しみ、継承するために、着物は難しいけど、「浴衣の着付け」を学ぼう！という動機付けにもなったのではないか。何より指導する側(英語科教員)が、専門の教諭(社会・家庭科・理科)からのアドバイスを元に授業内容を考えることができるため、授業内容が表面的な情報の伝達ではなく、専門的知識を含んだ内容について生徒に考えさせることができたことが大きな収穫といえる。

<コミュニケーション英語Ⅰ>

●Lesson1 What is your blood type? (理科との連携)

血液型による性格のステレオタイプや世界各国の血液型分布の差違について教科書で学習後、「血液型によって罹患しやすい病気(新型コロナウイルスはA型で罹患しやすいなどを例に挙げた)」について学んだ。さらに大沼巡検で興水が防虫していたにもかかわらず、蚊に刺された事例を挙げ、関崎教諭からもらった「蚊に刺されやすい人」をテーマにディスカッションを深めた。まず、最も蚊に刺されやすい血液型はO型で、最も刺されにくいのがA型だということを説明し、その他の例(汗をかくVS かかない、太っているVS やせている、最も蚊を引き寄せる色など)について議論を深めた。しかし、生徒の反応はあまり芳しくなく、「テーマ設定がわかりづらかった」「血液型との関連性が微妙だった」などの声が聞かれ、あまり意欲的に取り組んではいないようであった。反省として、何でもかんでも科学的テーマに結びつけるのではなく、自然な流れで実施していくべきだと痛感した。

